矢作川流域圏懇談会通信

H27 海部会編 vol. 1

発　行　日：平成 27 年６月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 25 回海部会 WG を開催しました！

６月６日（土曜日）に第 25 回海部会WGが西尾市役所にて開催されました。今回の WG では、昨年度の活動の報告と今年度の活動の進め方について、意見交換を行いました。

日　時：H27 年６月６日（土）　10:30～12:00
場　所：西尾市役所　１Ｆ　多目的室
参加者：20 名（事務局含む）

◆主な会議内容

１：本日の話し合いで決まったこと

■ごみ・流木問題の活動方針について

●山部会との連携の一環として合同WGを開催（9月予定）し、ごみや流木の海岸漂着に関する現状について調査するなど、流域圏全体の問題として共有し、解決策の検討について意見交換を行います。
●愛知県の啓発活動との連携など、関係機関のイベントに参加し、互いの活動の相互理解と情報共有を図り、問題解決に取り組みます。

■豊かな海の生物調査の活動方針について

●造成干潟における生物の定着状況について、継続的かつ系統的なモニタリング調査計画を検討し、実施に取り組みます。
●市民への啓発活動の一環として、市民向け生物調査の企画を検討します。

■海と人との絆再生の活動方針について

●海への理解と水辺に人を集める活動の一環として、造成干潟の一般開放の方向性と課題について検討します。
●山部会との合同で漁業者との意見交換を目的とした交流会を実施します。

■干潟・ヨシ原再生の活動方針について

●造成干潟の地形形状の変遷について市民レベルで実施可能な調査項目、方法について検討します。
●東幡豆地域で取り組まれている水産庁の水産多面的機能発揮対策支援事業のモデル箇所としての追加を検討するとともに、技術発表会での発表など全国への情報発信、PR活動の実践に努めます。

■今年度のWGの進め方について

●課題として掲げた4テーマについて、できることから活動するというスタンスで取り組むこととします。
●「豊かな海の生物調査」および『海と人との絆再生』についても造成干潟を題材として、各部会との連携を図りながら様々な活動を企画、実施していくこととします。

■今後のスケジュールについて

●座長と事務局で議題内容と概略スケジュール等を調整し、連絡します。

２：意見交換

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

（１）ごみ・流木問題のについて

- 海での流木問題は、漁港内に流木が流れ着いて、船の出入り等を阻害していることである。この流木には矢作川の河川内に生育している樹木が多く含まれており、山から出ているものばかりではないことがわかっている。また、美浜へ流れ出たものは知多半島に流れ着くという話もあり、三河の方へ流れ着く流木は矢作川のものではない可能性がある（井上）
- 流れ着いたゴミや流木を誰がどういうふうに片づけるか具体的に話を整理する必要があり、このためには市町の応援が不可欠である。現状は 5m程度の流木は集めてもおいてあるだけであり、処分できていない。（石川）
- 上流から流れてくるゴミを下流が処理するのはおかしく、今の仕組みでは下流にしわよせがきている。流域で発生したものは、それぞれが負担して処理するというのがあるべき姿であると考えている。ただし、海で発生しているゴミもある。どのように対応するのが適切か、その仕組みづくりが必要である。（鈴木）

（２）豊かな海の生物調査について

- 岡崎市が来年度市制 100 年をむかえるにあたって、市制 100 年新世紀岡崎チャレンジ 100 という施策をかがており、市民から企画を募集し、採用されれば一事業 100 万円の補助金がでる。私は応募する権利があるので、もしも、この懇談会で市民向けの講座として企画、検討していただけるなら、私が対応できる。（太田）
- 造成干潟ではこれから様々な生物が定着すると思うので、この干潟はこれからも調査を実施することが望ましい。ただ、市民を対象とするなど、どのような調査を実施するかは系統的に考えたほうがよい。（石田基）
- これまでの経験から、造成干潟には３年程度で生物が定着すると考えられるので、あと 1 年程度は人を入れない方がよい。実際に市民が観察する場合は、石をのければカニがいるというレベルでいいと思う。（鈴木）

（３）海と人との絆再生について

- 山部会との合同ワーキングの中で漁業者と交えて話をしたいという意向があるが、来てもらえそうか。（鈴木）
- 25 日は漁協組合の役員が参加可能である。（石川）
- 愛知県環境部では啓発活動に取り組んでおり、その一環として本日西尾駅前のスーパー内でブースを設置しており、生物展示など環境教育的な取り組みを行っている。また、今年は NPO 団体と協力して 10 月に碧南で大きなイベントを計画している。

（４）干潟・ヨシ原再生について

- 昨年度、矢作ダムの土砂を使って造成した干潟の現況として、表面の細砂が流出し、礫が露出している。その礫の表面にはアオサが張り付いた状況である。細砂は東側（浅い方）に流出しており、このことは埋め立て工事等の関係から東からの流れの力が弱く、西側の力が強いためと考えられる。（石川）
- 造成干潟は自然に供給されない土砂を人為的に補給したものであり、そのうち無くなるかもしれないし、または堆積するかもしれない。将来的にどうなっていくかという視点でみていくことが必要である。（鈴木）
- 地形状況を把握していたいという意向があり、できれば市民ができるなど簡易な方法があればよいのだが、事務局として何か提案できることはないか？（青木）
- 固定杭を使って簡便に高さを計測するなど色々と方法は考えられる。平面形状をみるならば、ドローンを使う方法もあるので、これらは改めて提案したい。（塚本）

今後の流域圏懇談会の予定

次回 海部会第 25 回 WG の開催については７月に開催します。

矢作川の河口干潟の変遷を話題とした勉強会の予定です。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長　桑、技官　宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。